

性教育について

子供に対する性教育の在り方と、正しい知識の普及

About the sex education of the child

The spread of way of the sex education for the child and right knowledge

梅木千夏

指導教員 李盛姫

サレジオ工業高等専門学校デザイン学科ビジュアルコミュニケーション研究室

キーワード：性教育, 子供, 親, 家庭, ドリル

1. はじめに

とあるニュースで、家庭教師である男が教え子の女子小学生にわいせつ行為をしたとして、逮捕されるという報道を見た。その際、被害にあった女子小学生は、当時「何をされていたのかわからなかった。」と話していた。分からないというその言葉の意味には、警戒出来ない・対処出来ない事を示していた。私は、その言葉の意味を重く受け取り、根本となるであろう性教育を問題視することにした。

本稿は、2020年にサレジオ工業高等専門学校（以下、本校）デザイン学科の卒業研究のテーマでもあり、大人も子供も安心して一緒に学べる、性教育のドリルの開発を行う。

2. 研究目的

本研究では、日本の性教育の遅れについて調査・分析を行い、子供の成長にどの程度影響を受けるかを研究する。また、その問題を解決するためのアイデアを考察する目的とする。

3. 調査内容

まず初めに、私は以下の三つの観点から性教育の現状について調べ、日本の性教育における現状の問題点を洗い出した。

①世界の性教育について、②性教育の世界基準、③知識の習得率（日本）。

3-①世界の性教育について：性教育の特徴が分かる、三つの国を調査した。アメリカでは、総合的性教育・禁欲教育・その二つを合わせたものがある。総合的性教育では、性を生物学・心理学・社会学など様々な観点から、一人の責任ある人間の行動を学ぶ。禁欲教育では、結婚まで性交をせず禁欲生活を送る事の大切さを学ぶ。その他にも、外部から講師を招き、ゲームや映画を鑑賞するなど、多くの手法が用いられている。オランダでは、世界一実践的な内容を取り扱っている。また、性教育は五歳から始まり、日常に性があることを自然と捉えており、家庭でも自然と会話の中に性の話題がある。結果、オランダの十代の中絶率・出産率は世界から見ても極めて低い。タイでは、1990年代にHIV感染者が爆発的に増加した歴史がある為、2006年以降性教育が行われている。特徴として、性を人権の視点に立つ内容で構成されているが、教える側に保守的な考えがあり、関心を向けない事に課題がある。^[1]

3-②性教育の世界基準：ユニセフとWHOが協力し、ユネスコで発行されている、国際セクシュアリティ教育ガイダンスという、性教育のガイダンスがある。そこには、性教育とは何か明確に記載さ

れ、年齢ごとに教えるべき内容が細かく記載されており、性教育を遅くとも五歳から始めるべきと書いてある。^[2]

3-③知識の習得率（日本）：日本にも「性教育の手引」という性教育のガイドライン（日本）が存在しており、それを元に教育機関は授業を行っている。2016年NPO法人PILCONでは、関東圏全日制高校生1～3年生の男女を対象とした4016名の性知識の習得を問う調査では、正答率は平均3割という結果になった。このことから、日本の性教育を見直す必要がある。^[3]

三つの観点から調査した結果、日本の現状の性教育では、子供の身を守ることや社会性が身につけていないことが判明した。しかし、性教育とは本来オランダに例があるように、学校という組織だけが教えるべきではない内容ばかりだと思われる。そこで、重要だと思われるのは家庭での教育である。現状の家庭における性教育について知る為、子供を持つ親へ対しアンケートを実施した。

4. アンケート結果

アンケート結果については、全ての親が性教育を大切だと考えていることが分かった。しかし、実践していないと答えた方の中では、「自らが性教育をまともに受けていないことから、どう教えれば良いかわからない。」という回答があった。

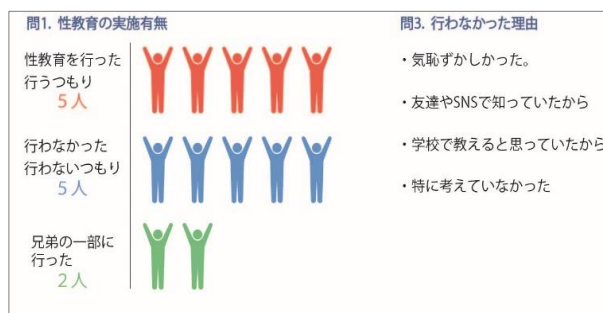


図1 アンケート結果のまとめ（一部）

5. 分析と考察

何故日本の性教育は遅く、そしてそのどこが問題点であるか、アンケート結果から考察を行った。問1「あなたは性教育をしましたか、またはするつもりですか？」で、していないと答えた方

の意見を参照した。図1で分かるように、性教育を教えるのは学校と考える方や教えることが恥ずかしいと考える方がいた。理由は、問3に回答されており「自らが、性教育をまともに受けてこなかった」「自分たちが受けた保健体育では、詳しくやらなかった」という意見だった。この事から、性教育を家庭で行うには、親の不安を取り除くことは大変重要な事であると分かる。また、問2で「行った・行うつもり」と答えた方にも、ある課題が浮上した。それは、教えている内容や頻度が定まっていない事だった。以上の事から性教育は、正しい知識を身につけ、社会性を学ぶ重要な教育の一環と考察する。したがって、この事も解決する一つの課題と捉えた。

6. 提案の方向性

今後の方向性として、親と子供が安心して学べる性教育のツールとしてドリルを検討している。理由として、手元で一緒に見聞き出来るアナログ媒体だからである。ドリルの中身としては、A4横サイズ、約一か月分の分量を20ページで想定する。また、表現形式としては幼児に向けたイラストをメインとして展開する。

7. おわりに

プロトタイプドリルを完成させた後、ターゲット層の親子に検証を行い、最終案としてドリルを完成する予定である。

ドリルが普及され、親子の間で性の話題が当たり前になり社会性を向上させ、いずれはこのドリルを必要としない社会になることを願っている。

参考文献

[1] はじめてからだなび
https://jp.sofygirls.com/ja/family/puberty/young_gender_01.html 2020.06.24/10:35

[2] 国際セクシュアリティガイドン/2020.08.11
<https://en.unesco.org/news/urges-comprehensive-approach-sexuality-education> 2020.08.11/13:37

[3] NPO法人PILCON/2020.07.27
[file:///C:/Users/s16205/Desktop/6a90f1cd42dd5ae984e065c5fa6675ca-2%20\(1\).pdf](file:///C:/Users/s16205/Desktop/6a90f1cd42dd5ae984e065c5fa6675ca-2%20(1).pdf) 2020.07.27/15:05